

ば感興を起さしむる事は出来ない、教育者の
 談話も之と同様に心意の發達した高等の學生に
 は教訓に學識さへあれば如何に訥辯でも興味を
 起さしめ得るが幼兒には表情が巧みでなければ
 感興を催さしむる事は全く不可能である、兒
 童既知の材料を巧みに取り扱ひ得るとせば新材
 料の如きは誠に易々たるものである。
 次に幼稚園の談話は「それですから皆さんは……

いろ／＼の汚點抜き法

△酒のしみ 酒の汚點は久しく経つ時は抜けるものなれば成る可く早く水にて洗ふ可し。尙抜けざる時は罏砂とアンモニヤ
 の溶液にて洗ふ可し。又別法としては大豆の煮汁に半日位浴し置き更に清水にて洗ふ可し。但し酒のかゝれる時煙草の煙
 をかけ置く時はしみとはならぬものなり。
 △油のしみ 白砂糖を塗りつけて清水中に洗へ今大抵は落ちるものなり。
 △醬油のしみ 布をよく張り置いて上より熱き湯を注ぎ可し。汚點は漸次に吸ひ取らる可し。
 △乳のしみ 毛織物の上に鹽水、エーテル、又はベンゾール油を塗りつけ吸取紙にて拭ひ取る可し。若し絹物なる時は其部分
 と淡きアルコール液中に浸して海綿にて洗ふ可し。
 △血液のしみ 少し許りならば燈心に唾液を浸してよく拭く可し。若し血痕多ければ石鹼にて洗ふか或は冷水を口に含みて洗
 ふ可く又酒のしみ抜き法に應用するも可なり。汚點濃きときは最初湯にて洗ひクエンサンと酒石酸とを同量に加へて汚點の部
 分に塗りつけて洗ふ可し。其部分に酸を塗り洗ふ可し。汚點濃きときは最初湯にて洗ひクエンサンと酒石酸とを同量に加へて汚點の部
 分に塗りつけて洗ふ可し。若し又白表に錆のつきたる時は桶に熱湯を入れ、其部分に鹼石を載せて湯に浸せば汚點は落けるが故に
 △尿のしみ 淡きアルコールニ僅かの硝酸を加へたる五勺ばかりの液に一升位の水を加へたる割合の溶液にて洗ふ可し。
 △ベンキのしみ 揮發油にて洗ふ可し。煙草の脂を除くには初め味噌汁にて洗ひ次に清水中に洗ふ可し。
 △脂のしみ 揮發油にて洗ふ可し。

……なければなりません……」云ふ風に
 最後に教訓的の抽象した言葉を扱ひのは好まし
 からぬと思ふ、是非曲直の判斷は談話の模様
 によりて兒童自らが出来る様仕向けねばなら
 ぬ、又談話の材料は必ず教訓的でならぬと考
 ふるのも僻見である、談話の目的には徳性涵養
 の外に或る物があるべきである。

(以下次號)